

# 読みが苦手な子供への適切な支援のために

## ＜読みが苦手な子供への支援の例＞

児童の様子

- ・逐次読み（一文字ずつ読む）や、遅延（言葉がすぐに出てこない）がある。
- ・読むことを苦手としており、学習への意欲が低い。

指導の基本

＜文章を読むためには、文字から音に素早く変換できる必要がある。＞

「くるま」→「く」「る」「ま」→「く・る・ま」

文字を見て

1文字ずつ読める

3つの文字を読める

「くるま」→「くるま」

文字を見て

3文字をひとかたまりとして読める



意味を認識できる

指導実践の具体例

### 学習指導

#### 「音読指導アプリ」の活用

家庭において、「ディスレクシア音読指導アプリ」による練習に取り組んだ。



#### 「フラッシュカード」の活用

通級による指導において、文字から音に素早く変換できるよう、フラッシュカードを使用して学習に取り組んだ。



### 合理的配慮

#### 教師による問題文の読み上げ

通級による指導において、通級指導教室担当教員による単元テスト等の問題文の読み上げや、口頭での回答を認め、問題の内容理解を図った。



【通級指導教室担当教員から】

- 通級指導教室において、問題文を先生が読み上げ、A君が回答することにより、80点をとることができた。
- ▲ 読み上げを行わないときは、問題文を最後まで読むことができないこともあった。



## 学習指導と合理的配慮の両面から

適切な実態把握に応じた支援を積み重ねるとともに、学ぶことへの意欲を高めるために合理的配慮を適切に実施することが大切です。

※音読指導のための教材については、特センホームページを御覧ください。